

個別機能訓練加算Ⅱの留意点



個別機能訓練加算Ⅱの算定について

<p>個別機能訓練計画書の作成にあたって</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の居宅に訪問 ①居宅訪問シート ・個別機能訓練計画書の作成 ②興味関心チェックシート ①～②を参考に本人又は家族の要望をヒアリングの上、作成する
<p>個別機能訓練計画書のプログラム内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①ADLやIADLなどの働きかけ ②役割の創出、社会参加の実現などの参加の働きかけ
<p>評価</p>	<p>個別機能訓練の効果、実施時間、実施方法等について評価する</p> <p>評価内容や目標の達成度合いについて、介護支援専門員等に適宜報告・相談する</p>

上記を3カ月に1回、定期的におこないます。

《 留意点① 》

個別機能訓練加算Ⅱの訓練内容について

身体機能への働きかけだけでなく、ADL（食事、排泄、入浴等）や IADL（調理、洗濯、掃除等） などの活動への働きかけや、役割の創出や社会参加の実現といった参加への働きかけを行い、心身機能、活動、参加、といった生活機能にバランスよく働きかけるものとする

単に「関節可動域訓練」「筋肉増強訓練」といった身体機能向上を中心とした目標ではない。
身体機能の向上を目指すこと（座る・立つ・歩く等ができるようになる）を中心に行うものは、個別機能訓練加算（Ⅰ）とする

個別機能訓練計画書のプログラムが

上記の関節可動域訓練、筋肉増強訓練のみになっているケースがあります。
ADLやIADLなどの日常生活動作に直結する訓練内容を計画書に反映してください。
また、ケアプランに機能訓練の内容が記載されていないこともあります。
ケアマネジャーに依頼しケアプランに反映いただくようお願いします。

個別機能訓練加算（Ⅱ）の訓練内容例示

長期目標	1人で入浴する
短期目標	1月目「浴室への移動及び脱衣」、2月目「温度調節及び浴室内への移動」、3月目「洗身・洗髪」 ※わかりやすい段階的な目標を設定
訓練内容	浴室への安全な移動、着脱衣、湯はり（温度調節）、浴室への安全な移動、洗体・洗髪・すすぎ等 ※事業所内の浴室設備を用いるなど実践的な訓練を反復的に行う

※サンプルスタンダード項目サンプル



・食事系

食器洗い・洗濯ものたたみ・配膳・調理手伝い・嚥下体操・箸掴み

・更衣

着脱動作

・排泄

ポータブルへの移乗・トイレ手順

・移動

段差、スロープ昇降・普段の歩行形態での歩行訓練（杖、シルバーカー等）・散歩・バースクワット・椅子に座ったままの上肢下肢体操

・入浴

洗体動作(タオル)・跨ぎ練習

・整容

歯磨き（口腔ケア）、化粧、洗顔、髭そり

・IADL系

買い物・料理・薬の管理・掃除、お金の管理など

平成24年度のQ & Aでは……

例えば、「自宅でご飯を食べたい」という目標を設定した場合の訓練内容は、配膳等の準備箸（スプーン、フォーク）使い、下善等の後始末等の食事に関する一連の行為の全部又は一部を実践的かつ反復的に行う訓練が想定される。

平成24年度介護報酬改定に関する関係Q&A（平成24年3月16日）問66

例えば、「1人で入浴する」という目標を設定する場合、……訓練内容については、浴室への安全な移動、着脱衣、湯はり（温度調節）、浴槽への安全な移動、洗体・洗髪・すすぎ等が想定され、その方法としては利用者個々の状況に応じて事業所内の浴室設備を用いるなど実践的な訓練を反復的に行うこととなる。

平成24年度介護報酬改定に関する関係Q&A（平成24年3月30日）問13

→少なくともニーズに関わる動作そのものに近い項目設定が1つは求められる。と考えるのが無難である。

《 留意点② 》

① 評価

個別機能訓練計画書に掲げた目標に対しての評価を記載してください。

評価項目

「個別機能訓練の効果」「実施時間」「実施方法」

上記3点の項目に対して、評価をおこない、**計画内容の見直し・継続を判断し、**
ケアプランの見直しが必要な場合はケアマネジャーに依頼をおこなう。

《 留意点③ 》

①記録

個別機能訓練に関する記録（実施時間、訓練内容、担当者等）は、利用者ごとに保管する